



プログラム
2

助けたい、助けられたいの しくみを考えよう!

～フードドライブのつながりをきっかけに見えてきたこと～

実行主体：第4次能美市地域福祉活動計画 暮らし応援委員会
社会福祉法人能美市社会福祉協議会

日時：2月18日（土） 10時30分～12時

会場：ふれあいプラザ 2階 第1会議室

参加者：54名



内容 地域でつながり、助け合うためのしくみづくりに向けて話し合いを進めてきました。その取り組みとして、フードドライブを行い周知したことで、企業や団体、町(内)会のイベントでも取り組みが進み、助け合いの活動が広がってきましたが、市民からは、「フードドライブで集められたものって、どこに行っているの？生活に困っている人ってどれだけいるの？」などの声が寄せられてきました。

そこで、フードドライブで集められた食品をきっかけに、つながった団体や子ども食堂、国際交流協会からいただいた食品が役立てられていることの紹介をしました。また、地域の見守りからフードドライブを活用して支援につながった事例を、寸劇を交えてご紹介しました。

その後、「私たちができること」をテーマに意見交換を行いました。地域で気になる人の存在を挙げ、その人にどのような行動（関わり）をするのかを話し合ったことで、地域で生活する中で気づきの重要性と日頃からの声掛けや関わり、つながりの大切さを実感する機会になりました。

今後に向けて

暮らし応援委員会では、地域住民が抱える複数の課題が存在していることや住民だけでは、解決できないことがあることを知り、地域の多様な主体がつながり課題解決に向けて取り組める地域づくりを進めます。また、一人でも多くの方の支援につながるためのタイムリーな情報発信のしくみづくりを進めます。



地域の中で困っている人を支援につなげた事例を寸劇で紹介しました。



「困っている人・困った人などに地域の中でつながるために、自分がどのような行動・活動をするのか」を、皆で考える機会としました。

参加者の感想（一部抜粋）

- フードドライブに寄付したものがどのような活動に役立っているかよく分かり、これからは少しでも出せたらと思います。
- 困っている人がいないか、気づくことが大切だと気づいた。
- 意見交換を通して、具体的なケースや事例で、今、何をすべきか深めることができた。
- 国際交流協会の発表で外国の方を理解すること、知ることができました。